

各位

上場会社名 朝日工業株式会社
 代表取締役社長 赤松 清茂
 (コード番号 5456)
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 中村 紀之
 (TEL 03-3987-2161)

通期業績予想の修正及び剰余金の配当(中間配当無配)に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2014年5月12日に公表した2015年3月期の通期業績見通しを修正し、本日開催の取締役会において、2014年9月30日を基準日とする剰余金の配当(中間配当)を無配とすることを決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

●通期業績予想の修正について

平成27年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	41,000	1,400	1,350	550	78.57
今回修正予想(B)	37,000	550	500	600	85.71
増減額(B-A)	△4,000	△850	△850	50	
増減率(%)	△9.8	△60.7	△63.0	9.1	
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	43,591	△562	△641	△11,093	△1,584.79

(注)当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の株式分割を行っております。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当該株式分割後の発行済株式数(自己株式数を除く)により算出しております。

修正の理由

本年5月12日に公表しました通期の連結業績予想では、その時点までに収集できる最大限の情報に基づいて業績予想値を作成いたしました。特に、鉄鋼建設資材事業での大雪の影響による製鋼工場の操業停止につきましては、可能な限りの情報を収集しその業績への影響を予想しました。しかし、製品販売数量減少や製品コスト上昇が当初の予想を上回るなど、操業停止がその期間中の業績に及ぼす影響は、当初の予想を上回るものとなりました。

本年6月19日の製鋼工場再稼働以降については、操業停止前からの製造コストダウン活動を引き続き強力に推進して製造コストの圧縮に努めるとともに、営業面では、一貫した販売策として付加価値の高い製品の販売による収益拡大や製品販売価格と鉄スクラップ価格の値差拡大に傾注し続けております。

しかしながら、第1四半期での製鋼工場の操業停止が通期の業績に及ぼす影響は大きく、第2四半期以降の収益回復策でその影響を払拭することが難しいと予想されることから、連結業績予想値を修正いたします。なお、連結当期純利益につきましては、本年9月30日に公表しました通り、雪害の受取保険金の計上が含まれております。

農業資材事業、碎石砕砂・マテリアルリサイクル事業については、当初の通期業績予想との大きな乖離は発生しておりません。

●剰余金の配当(中間配当)の内容について

	決定額	直近の配当予想 (2014年8月14日公表)	前期実績 (2014年3月期)
基準日	2014年9月30日	同左	2013年9月30日
1株当たり配当金	0円	未定	0円
配当金の総額	—	未定	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

修正の理由

当社の配当方針は、業績、財政状態および企業価値の向上に向けた事業投資のための資金需要などを総合的に勘案したうえ、株主の皆様への利益還元を図りたいと考えております。

しかしながら、本日開示いたしました「平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」でお知らせいたしました通り、現在の業績、財務内容および経営環境等は依然として厳しい状況が続いていることから、これらの事情と今後の事業計画等を総合的に勘案した結果、中間配当を無配とさせていただきます。

株主の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、かかる状況について何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

なお、期末配当につきましては、今後の業績動向を見極めつつ慎重に検討してまいりますので、未定とさせていただきますことを併せてご報告申し上げます。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上